

CASA新聞

発行 株式会社カーザミカワ
岡崎本社 ☎0564-24-2511
岡崎市吹矢町88番地
豊田営業所 ☎0565-28-3891
豊田市豊栄町6丁目1番地

輸入コスト13万円台 輸入米松製材第3・四半期

輸入米松製材の第3・四半期交渉は、カナダ内陸シツパーの米松KDタルキが1155ドル（C&F、立方材）、米松KD小角が1150ドル（同）で成約された。前回比510ドル高で、輸入コストは同6万1000円高。3カ月で8割の上昇となる。北米製材市況の高騰が主因だが、ウエストンフォレストプロダクツ（WFP）が事前に予告した価格を200ドル以上上回るだけに当惑の声は少なくない。カナダ西部内陸産SPF同様に、現地より高値を出さないと日本向けの生産枠を維持できない段階に入ったといえそうだが、ほかのシツパーが追随するかどうか注目される。

輸入コストは1ドル109円として13万3000円弱（港オントラ、立方材）。450ドル（C&F、同）前後だった昨年第3・四半期に比べると2・5倍以上になるが、仕入れの確保を優先する輸入元は次々と成約している模様だ。

北米製材市況は4月以降、急角度で上昇し、5月第2週までは指標となる内陸産フアー&ラーチ2×4と2ベターが1630ドル（工場出し、10000BMノミナル）、立方材換算で1053ドルまで上昇している。一方、第2・四半期の日本向けは640ドル（C&F、立方材）。足元では差額の413ドルにフレイトと日本向けの品質プレミアムを加えた金額が産地にとつての機会損失となつて

いる。当該シツパーは「当社では2より1割以上のプレミアムがある集材材・CLT向けのラミナを製材しており、日本向け生産はラミナと2の価格とを比べたうえでの判断となる」と説明する。四半期契約の日本向けは3カ月価格が固定されるため、値上げをしてもすぐに引き離されてしまう。これが思い切った値上げの背景にあるが、今回の提示価格なら前回並みの数量は出せるという。シツパーは「国内市場は圧倒的な供給不足にあり、供給量の維持を最優先した。本来なら供給を増やした

いとところだが、供給不足は現地も同じ。自社で素材生産を手掛ける沿岸大手と異なり、当社はオーブンマーケットからの丸太の調達が多く、ディメンションサイズの丸太から日本向けの製品を挽かなければならないことも、供給の制約要因になつている。当社としては供給量の維持を前提に、価格は需要家に判断してもらう形を取らざるを得なかった」と語る。

輸入米材製材の国内価格はWFPの値上げ予告を受けて、10万円（問屋オントラ、同）を超える水準まで上昇している。同社の正式なオファーはこれからだが、再割用の米ツガ原板価格も300ドル幅で上昇すれば、3万4000円（立方材）前後のコスト高になり、製品販価で12万13万円（問屋オントラ、立方材）水準になると想定される。その意味では今回の提示価格も現実離れした価格とはいえず、新たな相場になる可能性も十分にある。

国産、出荷堅調で在庫減収まらず

4月の合板供給量

4月の内外産合板供給量は47万910立方材と前年同月比1・3%増（前月比1・4%減）だった。国産合板は26万立方材と堅調な生産が続くが、針葉樹合板の在庫量（日合連推計値）は9万2300立方材（同1万700立方材減）と減少傾向が収まらない。輸入合板の入荷量は2カ月連続で21万立方材台になったが、マレーシア、インドネシア産の入荷量とともに減少。針葉樹合板と針葉樹

構造用合板は、いずれも出荷量が生産量を上回った。このため、針葉樹構造用合板の在庫量は8万5900立方材（同5100立方材減）と出荷量ペースで0・3カ月分程度しかない。各合板工場では生産したものをすぐに出荷する状態が続いており、既に木建ルートを中心に品薄感が生じ始めている。生産量をさらに増やしたいが、製材、集材向けの需要増により合板用丸太も集材に苦勞する状況が西日本を中心に続い

ており、思うように生産量を伸ばせない。輸入合板ではマレーシア、インドネシア産とも6万立方材の入荷になった。マレーシアは3月に9万立方材を超える入荷があったが、3・4月の平均入荷量は7万8200立方材（前年同期比6・6%増）と増加幅はそこまで大きくはない。1・4月の入荷量も前年同期比1・9%とほぼ横ばい。インドネシアからの1・4月の入荷量は同18・3%減と大きく減少しており、輸

国産合板商況 活況で品薄感強まる

国産針葉樹合板の荷動きは活況を呈している。当初は木材製品不足によるプレカット会社の受注制限で、合板需要の冷え込みを警戒する声もあった。しかし、プレカット会社など直需系からの引き合いは懸念されていたほど落ち込まなかった。さらに、木建ルートも在庫を少しでも確保しようと注文を増やしている。このため、国内合板メーカーの5月分の受注枠は月初めには埋まり、既に6月分も埋まり始めている。

4月の針葉樹合板の生産量は25万7500立方材に対し、出荷量は26万8300立方材と生産量を上回っている。このため在庫量は10万3700立方材と減少傾向が収まっている。5月のメーカー在庫は、大型連休中の定期点検に伴う操業停止で一段と減つてはいる。多くの合板工場では生産が続いている。こうしたなかで木建ルートを中心に納期が延び始め、品薄感が広がっている。

国内合板メーカーは原木や接着剤などの値上がりに対応するため、東西双方とも6月からの値上げを唱えている。メーカー、流通とも現物玉が不足するなかで安値の注文を受ける様子はない。直需・木建ルートとも再度の値上げ唱えは4月から想定していたため、今回の値上げも素早く浸透する可能性がある。

名古屋

針葉樹合板は前月から引き合いが増え、メーカー在庫は減少、納期についても徐々に時間が必要になってきている。メーカー側は原料価格の上昇を受けて値上げの姿勢を打ち出している。大口需要家のプレカット工場では木材不足を背景に受注制限に踏み切るなど厳しい情勢下にあるが、構造用合板などを多めに確保しておこうという動きもあり、今後の値上げは受け入れられていく模様だ。

表示説明	値下げ	横ばい	値上げ
市況状況	ラワン薄ベニヤ	・	・
	ファルカタ正寸12mm T2	・	・
	針葉樹12mm 3×6	・	・

入南洋材合板の主要産地からの入荷量が改善する兆しはない。現地工場ではコロナ禍による工場の手不足、素材生産現場での人手不足に起因する原木不足、北米向けの輸出の好調といった要素が絡み合つて、日本向け供給量が改善する気配はない。マレーシアでは、1日から2週間のロックダウン（都市封鎖）に入っているだけに、「今月以降の供給量も増える」と予想するのは「難しい」（商社）との声もある。

名古屋商況

マーケットは値上げ一色。木材不足は輸入製品から国産材へ波及し、コスト増も著しい。大型プレカット工場では一般住宅物件の受注制限を行なっており、「資材が間に合わないため7割稼働が精一杯」「新規物件の加工は9月以降になる」との声が聞かれる。どの工場でも受け入れてもらえなかった漂流物件も多く、建築で支障が出てくる気配だ。輸入製品は供給減少やコスト増の影響で米材、コナテナ不足の影響で米材、欧州材、輸入合板いずれも値上がり加速している。特に品物が枯渇状態の米松KD小割材は前月比で1万円（立方尺）以上で上昇し

ているが、まるで天井が見えない。W・Rウッドの集成管柱やKD間柱も調達難航でさらに続伸し、代替材の杉製品も上昇している。SPF2×4デイベンションランバーも同1万円高だが、一層の先高は確実。エゾ松製品や合板も値上がりしている。

東海4県の3月の新設住宅着工数は8339戸（前年同月比4.4%減）で、11カ月連続の減少となった。このうち、持ち家（注文住宅）は3231戸（同6.4%減）で2カ月ぶりの減少。分譲住宅は2354戸（同6%減）で11カ月連続の減少となっている。

国交省は5月31日、4月の新設住宅着工を公表した。総数は7万4521戸（前年同月比7.1%増）で、2カ月の連続で増加した。持ち家は6カ月連続で増加し、マンションも2カ月の連続で1万戸を超えた。ただ、コロナ禍を経て回復傾向にあるものの、2年前の2019年までは4月も8万戸前後を維持していた。まだ力強さには欠けるものの、コロナ禍の下押し圧力は脱した模様だ。

4月は総数が前年同

月より約5000戸増え、このうち持ち家が前年同月より約1800戸、貸家が同約3500戸増加したが、分譲住宅は微減、給与住宅が約300戸減った。総数は21年2月まで20カ月の連続で減少し、その後3、4月と2カ月の連続で増加した。20年はコロナ禍で過去最低水準だったことを踏まえると、ようやく回復傾向に入ったことが伺える。

ただ、過去最低水準からの回復であるため、まだ勢いは感じられない。例えば、持ち家は

2万2877戸（同8.8%増）だが、前月比では2.4%増と微増。これまで持ち家は3月までの不需要期を経て、4月から伸びる流れがあった。19年は3月の約2万2400戸から4月は約2万5400戸へと約3000戸も増加した。

21年1月からの2度の緊急事態宣言で同月の総合住宅展示場来場者が約半減し、これが5月の大型連休までの受注契約に影響した。例年2、3月と来場者は減り、再び5月の大型連休で盛り上がる流れになる。

貸家は2万8825戸（同13.6%増）で、19年11月以来、17カ月ぶりに2万8000戸を超えた。20年4月が約2万5000戸と低すぎたため21年4月の2万8825戸も多く見えるが、19年は2万9500戸、18年までは3万5000戸を超えていた。

分譲住宅は2万248戸（同0.3%減）となり、2カ月ぶりに減少した。マンションは1万7776戸（同0.5%増

）と2カ月連続で増加し、この1万戸超は総数増加に貢献した。マンションの着工は傾向が読みにくく、大規模物件などの建設で着工件数は左右される。今回はマンション着工が多い3大都市以外のその他地域で増加した。戸建て分譲は1万1595戸（同0.6%減）で、17カ月連続で減少した。ただ、この5カ月は前年同月比の減少比率が縮小し、4月には微減まで回復した。

）と2カ月連続で増加し、この1万戸超は総数増加に貢献した。マンションの着工は傾向が読みにくく、大規模物件などの建設で着工件数は左右される。今回はマンション着工が多い3大都市以外のその他地域で増加した。戸建て分譲は1万1595戸（同0.6%減）で、17カ月連続で減少した。ただ、この5カ月は前年同月比の減少比率が縮小し、4月には微減まで回復した。

国産針葉樹合板

国産針葉樹合板（12ミ厚3×6判）はメーカーが値上げを打ち出した。国内合板メーカーの在庫が低水準で推移するなか、プレカット会社や木建ルートからの引き合いが強まり、品薄感が広がった。原木価格は高止まりし、接着剤も上昇。国内合板メーカーは東西双方とも、需要増と生産コスト増を背景に6月出荷分から値上げする。これまで木材製品不足でプレカット会社の新規受注制限が広がれば、針葉樹合板への引き合いも急速に冷え込むと見られていた。しかし、プレカットからの引き合いは強いままで合板メーカーの6月の受注枠も埋まった。

さらに、針葉樹合板構造用の在庫量は4月末時点で8万5900立方尺と、出荷量ベースで0.4カ月分を下回る状態が続いている。しかも、5月の大型連休で多くの合板工場が定期点検などで1週間程度操業を停止した。5月分の在庫量は、4月分よりもさらに減少している可能性が高い。このため、品不足への警戒感が月を追うごとに強まっており、木建ルートではある程度在庫を積み増しておこうとする仮需の動きもみられる。

在庫減で合板メーカーは生産したものをすぐ出荷する状態が続いているため、3月頃から木建ルート向けは納

期遅れが始まっている。足元では「思った通りに入荷せず、10頼んでいるうちの2しか来ない。自転車操業が続いている」（問屋）と綱渡りの状態だ。こうしたなか、合板メーカーの懸念材料は生産コストの上昇だ。合板用丸太は杉で1万2000〜4000円（立方尺）前後が常態化。しかも、輸入製品不足により杉羽柄材への引き合いが強まるなか、一部製材メーカーが合板向けB材丸太まで手当てする動きを見せており、今後、製材需要が高まれば杉丸太は全国的に一段と値上がりする可能性がある。さらに、杉同様にカラ松や桧も製材需要

の活発化で不足感が強まるなか、表裏面単板を確保するために米松丸太など輸入材比率を高めざるを得ない合板工場も出ていた。また、接着剤も世界的な化学品需要増により値上がりしている。

旺盛な需要のなかで生産コスト上昇に対応するため、メーカーは12ミ厚3×6判を現在の市中価格から50〜70円の値上げを打ち出した。さらに、直需向けも木建ルート向けに近い価格水準まで引き上げる姿勢だ。

米材協議会名古屋支部は5月27日、名古屋木材会館で例会を開き、需給や市況の動向などを協議した。木材不足は先行きが見通せない状態、調達は一層難しくなり情勢は厳しい。プレカット工場では受注制限で加工数量を抑制しているところが多く、従来にない情勢となっている。

価格評定は、品不足の米松KDタルキ・根太は前月比で立方尺あたり1万円高となり、値上げが続く。SPFデイベンションランバーは同2万5000円高の評定。先物価格はさらに上昇を示している。欧州材製品もタイトな供給情勢により、W

不足のうえに先行きの供給量が見通せない不安定な状態になっている。さらなる先高とみて必要以上に買い急ぐ川下業者も出ており、中間流通の在庫パランスは乱れている。プレカット工場では受注制限で加工数量を抑制しているところが多く、従来にない情勢となっている。

価格評定は、品不足の米松KDタルキ・根太は前月比で立方尺あたり1万円高となり、値上げが続く。SPFデイベンションランバーは同2万5000円高の評定。先物価格はさらに上昇を示している。欧州材製品もタイトな供給情勢により、W

ウッドのソリッド間柱と集成間柱は同7000円高、集成管柱は10円高、前月比200円高の続伸となった。このほか、国産材では杉間柱は立方尺あたり1万5000円高、桧KD土台は同5000円高、8000円高の評定に。ロシア材の赤松国内挽き製品も同1万1000円高と値上がりしている。

需要増で品薄感強まる

国産針葉樹合板（12ミ厚3×6判）はメーカーが値上げを打ち出した。国内合板メーカーの在庫が低水準で推移するなか、プレカット会社や木建ルートからの引き合いが強まり、品薄感が広がった。原木価格は高止まりし、接着剤も上昇。国内合板メーカーは東西双方とも、需要増と生産コスト増を背景に6月出荷分から値上げする。これまで木材製品不足でプレカット会社の新規受注制限が広がれば、針葉樹合板への引き合いも急速に冷え込むと見られていた。しかし、プレカットからの引き合いは強いままで合板メーカーの6月の受注枠も埋まった。

さらに、針葉樹合板構造用の在庫量は4月末時点で8万5900立方尺と、出荷量ベースで0.4カ月分を下回る状態が続いている。しかも、5月の大型連休で多くの合板工場が定期点検などで1週間程度操業を停止した。5月分の在庫量は、4月分よりもさらに減少している可能性が高い。このため、品不足への警戒感が月を追うごとに強まっており、木建ルートではある程度在庫を積み増しておこうとする仮需の動きもみられる。

在庫減で合板メーカーは生産したものをすぐ出荷する状態が続いているため、3月頃から木建ルート向けは納

期遅れが始まっている。足元では「思った通りに入荷せず、10頼んでいるうちの2しか来ない。自転車操業が続いている」（問屋）と綱渡りの状態だ。こうしたなか、合板メーカーの懸念材料は生産コストの上昇だ。合板用丸太は杉で1万2000〜4000円（立方尺）前後が常態化。しかも、輸入製品不足により杉羽柄材への引き合いが強まるなか、一部製材メーカーが合板向けB材丸太まで手当てする動きを見せており、今後、製材需要が高まれば杉丸太は全国的に一段と値上がりする可能性がある。さらに、杉同様にカラ松や桧も製材需要

の活発化で不足感が強まるなか、表裏面単板を確保するために米松丸太など輸入材比率を高めざるを得ない合板工場も出ていた。また、接着剤も世界的な化学品需要増により値上がりしている。

旺盛な需要のなかで生産コスト上昇に対応するため、メーカーは12ミ厚3×6判を現在の市中価格から50〜70円の値上げを打ち出した。さらに、直需向けも木建ルート向けに近い価格水準まで引き上げる姿勢だ。

米材協議会名古屋支部は5月27日、名古屋木材会館で例会を開き、需給や市況の動向などを協議した。木材不足は先行きが見通せない状態、調達は一層難しくなり情勢は厳しい。プレカット工場では受注制限で加工数量を抑制しているところが多く、従来にない情勢となっている。

価格評定は、品不足の米松KDタルキ・根太は前月比で立方尺あたり1万円高となり、値上げが続く。SPFデイベンションランバーは同2万5000円高の評定。先物価格はさらに上昇を示している。欧州材製品もタイトな供給情勢により、W

不足のうえに先行きの供給量が見通せない不安定な状態になっている。さらなる先高とみて必要以上に買い急ぐ川下業者も出ており、中間流通の在庫パランスは乱れている。プレカット工場では受注制限で加工数量を抑制しているところが多く、従来にない情勢となっている。

価格評定は、品不足の米松KDタルキ・根太は前月比で立方尺あたり1万円高となり、値上げが続く。SPFデイベンションランバーは同2万5000円高の評定。先物価格はさらに上昇を示している。欧州材製品もタイトな供給情勢により、W

ウッドのソリッド間柱と集成間柱は同7000円高、集成管柱は10円高、前月比200円高の続伸となった。このほか、国産材では杉間柱は立方尺あたり1万5000円高、桧KD土台は同5000円高、8000円高の評定に。ロシア材の赤松国内挽き製品も同1万1000円高と値上がりしている。